厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

三重県における成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究

研究分担者：丸山 貴也　（国立病院機構三重病院 呼吸器内科）

研究要旨　人口ベースで成人における侵襲性インフルエンザ菌感染症（IHD）、侵襲性肺炎球菌感染症（IPD）、激症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）、侵襲性髄膜炎菌感染症（IMD）を評価する体制を構築することで罹患率が算定でき、その特徴を解析することで、より適切な治療、予防を確立することができる。

A. 研究目的

1. 三重県の全医療機関で発症した成人のIPD、IHD、STSS、IMDを評価する体制を構築する。
2. IPD、IHD、STSS、IMDと診断された症例の患者情報と菌株を収集し、感染症研究所で莢膜型、遺伝子型、薬剤感受性などを精査する。

B. 研究方法

1. 三重県の基幹定点医療機関９施設＋１施設については保健環境研究所で菌株、患者情報を一括して収集し、国立感染症研究所へ送付する。
2. それ以外の医療機関については、三重病院で菌株を収集し、国立感染症研究所へ送付する。

（倫理面への配慮）

本研究では、必要な検体は、研究参加前に採取、保存されている菌株を用いるため、予想される不利益は少ないものと考えられる。

C. 研究結果

三重県在住者では、平成30年度はIPD17例、IHD５例、STSS７例、IMD１例が集積された。

IPDの特徴は平均年齢70.2歳で、男性の頻度が65％と高く、莢膜型の頻度は10A、23A、35Bがいずれも２例（11.8％）検出された。肺炎球菌ワクチンのカバー率はPCV13 vs PPSV23=17.7% vs 35.3%であった（**図１**）。

D. 考察

IPDに関して、小児に対するPCV導入（2010年PVC7、2013年PCV13）前、PPSV23のカバー

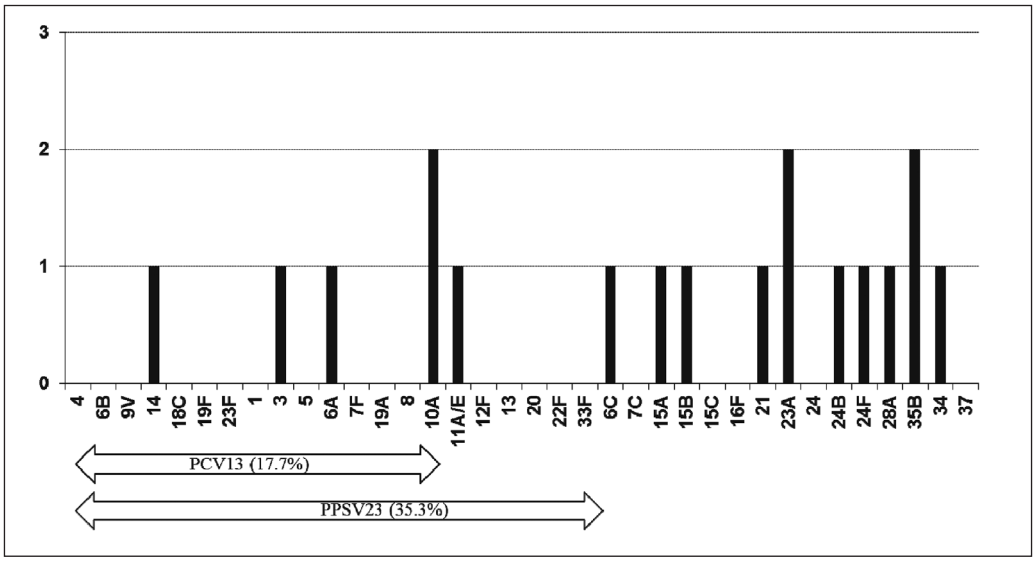

図 1. 三重県の成人IPDの莢膜型と肺炎球菌ワクチンのカバー率（n=17）

率は約80％、PCV13では約70％と報告されている。三重県でもカバー率の低下が進んでいることが推察され、引き続き、厳密な追跡を要する。

E. 結論

平成30年度は、過去３年で最も症例数が多く、三重県での研究は順調に進行している。今後も行政部門と密に連携をとり、菌株と臨床情報の収集に努める。

F. 研究発表

1. 論文発表

1） 丸山貴也.【新しい肺炎診療ガイドラインをめぐって】肺炎の予防戦略　ワクチンを中心に, 呼吸器内科, 33巻２号, 150-156, 2018.

2） 丸山貴也.【高齢者の感染症とその対策】『高齢者の各種感染症』肺炎　肺炎の予防ワクチン, Advances in Aging and Health Research, 69-79, 2018.

3） Maruyama T, et al. A Therapeutic Strategy for All Pneumonia Patients: A 3-Year Prospective Multicenter- Cohort Study Using Risk Factors for Multidrug Resistant Pathogens To Select Initial Empiric Therapy. Clin Infect Dis. 2018 Aug 1. doi: 10.1093/cid/ciy631. [Epub ahead of print]

2. 学会発表

1） 丸山貴也，シンポジウム２：やってみよう！臨床感染症研究，第88回日本感染症西日本地方会学術集会，2018.

2） 丸山貴也，シンポジウム５：呼吸器感染症のトータルマネージメント「肺炎の予防」，第88回日本感染症西日本地方会学術集会，2018.

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし